

募集

情熱を持って活動を

ハイスクールリクルータ 指定書を伝達

6月3日(金)、青森駐屯地において、今年度新たにハイスクールリクルータに指定された隊員に対し、「平成23年度東北方面隊ハイスクールリクルータ指定書」を伝達した。

今回、新たに指定された第9師団第5普通科連隊に所属する5名の隊員(大高士長、川村士長、藤田士長、小野寺1士、小山内1士)は、今後それぞれの母校を訪問して、後輩の進路相談をはじめ、自身の経験を交えて自衛隊で働くことの魅力等について説明し、広報活動を行う。

伝達後、増田本部長が「自衛隊は毎年新たな仲間を後輩として受け入れている。皆さんがその後輩と直接接し、想いを伝えることで、後輩が志を高く持ち、我々の組織に加わってくれるものと確信している。情熱をもって、今後の活動に邁進してほしい。」と激励した。



音楽活動を通じて生徒及び地域住民と交流を図る

大湊音楽隊音楽鑑賞会



7月12日(火)、むつ市大畑町の青森県立田名部高等学校大畑校舎において、海上自衛隊大湊音楽隊(隊長 樋口好雄 3等海佐)による「音楽鑑賞会」を支援した。当日は、同校生徒をはじめ、近隣地区の高校生や中学生のほか、保護者等約350名が参加した。

鑑賞会は2部構成で行われ、第一部は「吹奏楽コンクールの課題曲」や「楽器紹介」など学校側のリクエストを中心に、第二部はクラシック、軽音楽、ポップス等音楽隊がセレクトした楽曲を中心に演奏が披露された。

鑑賞会は曲が進むにつれ熱を帯び、第二部のポップスの演奏披露では、手拍子が起こるなど会場は大いに盛り上がった。最後に、音楽隊と同校及び大畑中学校の合同演奏が実施され、約1時間の音楽鑑賞会は盛況のうちに終了した。



勇壮な演奏に聞き入る学生たち

体験搭乗で自衛隊PR

チヌーク体験搭乗



8月20日(土)、航空自衛隊車力分屯基地において、三沢ヘリコプター空輸隊の支援を得て、CH 47Jによる体験搭乗を実施した。



当日は天候にも恵まれ、津軽地区の募集対象者及び募集・援護協力者等計90名が3グループに分かれてヘリに搭乗し、津軽平野及び五所川原市街地周辺を巡る約20分間のフライトを楽しんだ。搭乗後、五所川原第一高等学校三年生 加藤あゆさんは、「生まれ育った町並みを、上空から見られるという貴重な体験をさせていただきありがとうございます。」といった感謝の声や、同校三年生 三橋安梨さんは、「今回のフライトでより一層航空自衛隊入隊への意欲が強くなりました。」と受験に対する決意を語ってくれた。

援護



予自・即自派遣に感謝 ～地本部長、予自・即自雇用企業を表敬～

6月～8月の間、県内の予備自衛官・即応予備自衛官雇用企業計58社を表敬訪問した。これは東日本大震災における予備自衛官・即応予備自衛官の災害派遣が終了したことに伴い、被災地での隊員の活動状況を伝えるとともに、各雇用企業に対し、この度の出頭協力への御礼を述べたものである。中でも、県内で最多となる7名の隊員を被災地へ送り出した「弘南バス株式会社」では、人事部長から職場復帰後の元気な各隊員の様子を伺ったほか、今後の予備自衛官・即応予備自衛官の年間訓練予定等について説明を行った。

地本部長は「未曾有の被害をもたらした今回の震災において、予備自衛官・即応予備自衛官が果たした役割は大きい。それも企業の皆様のバックアップがあったからこそ成されたもので、心から感謝を申し上げます。今後も引き続きの御協力をお願いしたい。」と述べた。



空から見た日本の防衛

雇用協議会総会で防衛講話



7月6日(水)、青森市内のホテルで開催された「平成23年度青森地区自衛隊退職者雇用協議会総会」において、企業経営者など

会員58名に対し、「空から見た日本の防衛」と題する防衛講話を実施した。東日本大震災における青森県所在の陸・海・空の各部隊の活動を紹介した後、航空自衛隊の任務や保有する戦力状況をはじめ、我が国周辺の安全保障環境等について、映像やスライドを用いて分かり易く説明した。

中でも「緊急発進の現状」や「空自が保有する戦闘機の変遷」等の講話に、会員は熱心に耳を傾けていた。

約1時間の講話の最後に、「我々自衛隊は、今回の震災対応と平行しながら、国土防衛に全力で取り組んでいる。今後も引き続きのご理解と御協力を賜りたい。」と締めくくった。

護衛艦2隻に2千人来場

～青森港で自衛隊PR～

8月5日～7日の間、青森港において護衛艦「たかなみ」、おなみ」による艦艇広報を実施した。期間中は、「青森ねぶたまつり」が開催中ということもあり県内外から多くの来場者が訪れた。艦内公開では、877名が乗艦し乗員から各種武器や対空レーダー等の説明を受けつつ見学し、艦内に設けられた制服試着コーナーでは多くの方が記念撮影していた。また体験航海では、両艦併せて1,144名が晴天の陸奥湾クルーズを満喫した。

期間中、青森募集案内所は、「自衛官募集コーナー」「隊員から母校の後輩へのメッセージ集」等のコーナーを設け、募集対象者やその家族に自衛隊のPRを実施し、募集基盤の拡充を図ったほか、「ぬり絵コーナー」「ペンシルパルンコーナー」等では子供連れの家族で賑わい地域住民との交流を深めた。



両艦の1目艦長を勤めたおふたり



メッセージ集



バルーンコーナー



ぬり絵コーナー



制服試着コーナー



多彩な催しで自衛隊PR

鯉ヶ沢町で陸・海自合同イベント

7月14・15日の両日、鯉ヶ沢町七里長浜港において開催された「陸上・海上自衛隊合同催事」(鯉ヶ沢町主催)において、広報ブースを設け自衛隊をPRした。

14日は、海自大湊地方隊ミサイル艇「わかたか」の入港歓迎セレモニーが盛大に挙行された後、同町の幼稚園児及び小学生など約100名に対して、同艦の「特別艦内公開」が実施されるとともに、陸自第39普通科連隊の支援を受け「装備品展示」が実施された。児童達は、隊員から装備品についての説明を受けたほか、敬礼のポーズで記念撮影する等、会場は大きな賑わいを見せた。

15日は、道の駅「わんど」において陸自第9音楽隊による「音楽演奏会」が実施され、音楽隊の勇壮・華麗な演奏に会場からは大きな拍手が送られた。両日ともに、時折雨がパラつくあいにくの天候であったが、会場には多くの家族連れや学生等が訪れ賑わいを見せた。

また五所川原及び弘前地域事務所は合同で、「自衛官募集コーナー」、東日本大震災における「災害派遣活動パネル展示」等のコーナーを設け、自衛隊の活動をPRするとともに募集基盤の拡充を図った。

イージス艦八戸へ入港

八戸港約四千人で賑わう

7月16～18日の間、八戸港において、イージス艦「あたご」、護衛艦「まきなみ」、「せとぎり」による艦艇広報を実施した。期間中は、天候にも恵まれ、市民をはじめ、県内外から多くの若者や家族連れが訪れ賑わいを見せた。

艦内公開では、期間中延べ2,502名が乗艦し、各艦の広い甲板や砲台、対空レーダー等を見学したほか、隊員とともに敬礼のポーズで記念撮影をする家族連れの姿も多く見られた。また「あたご」及び「せとぎり」による体験航海では、両艦併せて1,172名が乗艦し、八戸湾クルーズを楽しんだ。

八戸地域事務所では、岸壁に「自衛官募集コーナー」を設け、訪れた募集対象者やその家族に対し、自衛隊についての概要及び自衛官募集のパンフレット等の配布を行ったほか、自衛官任用制度や募集種目について分かり易く説明した。

その他にも、東日本大震災での自衛隊の活動を紹介する「災害派遣活動パネル展示」をはじめ、地本ゆるキャラや装備品をテーマにした「ぬり絵コーナー」、「制服試着」、「ペンシルパルンコーナー」等、多彩な催しを通して自衛隊に対する興味や関心の高揚を図った。



8月転入者紹介

○現職
○階級
○氏名
○前部隊
○座右の銘



募集課長
2等陸佐
高橋 道
第6特科連隊第1大隊長
勇猛精進

この度の異動で募集課長を拝命した高橋2佐です。募集業務に関しては静岡地連以来約10年ぶりとなります。
前職では東日本大震災に際して宮城・福島への派遣を通じて厳しい環境の中、不眠不休で黙々と活動する隊員の姿を見てあらためて組織・隊員の素晴らしさを肌で感じました。
この経験を踏まえ、国の危機的状況の中で真に役立つ隊員を募集するため、誠意と熱意を持って募集業務を実施する所存でございますので、よろしく御指導・御協力をお願い致します。



青森地区援護センター総括幹部
1等陸尉
恩田 善徳
第14特科隊
温故知新

8月1日付で青森地区援護センター総括幹部として着任した恩田1尉です。前職は第14特科隊で総務・人事を担当しておりました。出身は愛知県です。青森県での勤務は2回目、8戸で勤務していた事があり、約7年ぶりの青森県での勤務ということもあり、家族ともども喜んで帰ってきました。
地本勤務は初めてですが、本部長要望事項「誠意と熱意」「連携」を図るため、ネガティブではなくポジティブに組織力を発揮するため、信頼を得る業務の遂行を心がけ青森地方協力本部の任務達成に少しでも貢献できるような努力を継続します。この指導・ご協力の程よろしくお願い致します。



総務課管理班長
陸曹長
葛西 恵介
第9師団司令部付隊
日々勉強



三沢募集案内所長
1等空尉
金内 辰也
補給本部
質素儉約

8月1日付で補給本部から三沢募集案内所長として着任した金内(こんない)1尉です。
出身は東京都、防大を卒業後、空幹候校、小牧の第1輸送航空隊、十条の補給本部を経て、現在に至っています。
今年度は、東日本大震災の災害派遣において自衛隊の活動をアピールできた時期ではありますが、募集環境は決して楽観視できる状況ではなく、また少子化の波も受けて、厳しさを増していることを肌で感じている次第です。このような状況下でしっかりとした募集基盤を築くためには、地域の協力者の方々の支援が必要不可欠となります。事務所の5名の広報官とともに協力者の方々の繋がりを大事にしつつ、更なる信頼関係を構築し、5年10年後にも繋がる募集基盤を築いていければと思います。

三沢の所長としては歴代1位の若輩ではありますが、誠心誠意をもって職務に励んでいきますので、皆様のご指導ご協力よろしくお願致します。



援護課即応予備自衛官係
陸曹長
伊藤 玉明
第9師団司令部付隊
継続は力なり



募集課採用係
陸曹長
佐藤 徳和
第9師団司令部付隊
当下一念



総務課総務係
2等陸曹
大橋 義弘
第5普通科連隊
日々前進



総務課広報係
2等陸曹
中野渡 茂治
第9師団司令部付隊
臨機応変



五所川原地域事務所広報官
2等空曹
松山 繁
第42警戒群
雲外蒼天



総務課総務係
2等陸曹
大屋 智子
第9師団司令部付隊
健康第一



募集課企画係
3等陸曹
嶋守 三智子
第9高射特科大隊
一所懸命



五所川原地域事務所副所長
1等陸曹
川村 義統
募集課採用係
成せば成る!



総務課車両管理係
2等陸曹
三上 幸直
五所川原地域事務所広報官
自然体



八戸地区援護センター援護係
吉田 厚史
継続は力なり

部内異動者紹介

新規採用期間業務隊員紹介

目を惹く光のPR



柳町交差点は人や車の往来が多くPRには最適

7月1日〜8月31日までの2カ月間、電光掲示板を活用した募集広報を実施した。
これは、官庁・ビジネスの中心拠点である青森市の国道柳町交差点において、電光掲示板「サードスクリーン」を活用し、自衛官募集のメッセージを放映したもので、「平和を、仕事にする。自衛官募集 自衛隊青森地方協力本部」という内容で、通行人をはじめ、信号待ちのドライバーなど多くの市民の目を惹きつけ毎日朝7時30分から夜9時30分まで、計168回繰り返し放映された。
同企画を立案した企画班長(伊藤1尉)は、同電光掲示板は、県内で最も流動人口の多い場所に設置されており、地域に密着したコミュニケーションメディアであるとともに、高い広告効果が期待される。また先月開催されたねぶた祭りにおいては、県内外の観光客に向けて広くPRできた。」としている。



ねぶたとともに自衛隊をPR

防衛モニター委嘱式

5月12日(木)、地本本部において、防衛モニター委嘱状伝達式を実施した。
これは防衛モニターとして、今後、部隊見学や各種イベント等を通して、我が国の防衛施策及び防衛省・自衛隊の活動に対し、忌憚のないご意見をいただくため、今年度、青森県から新たに任命された会社員の島田幸子さんと大学生の川崎莉歩さんの2名に対し、本部長から委嘱状及び証明書が伝達された。
式典後、島田さんは「今後、自衛隊への理解をより一層深め、定期的にモニター報告をしていきたい。」
川崎さんは「この4月から弟が自衛隊に入隊したこともあり、非常に感心がありました。多くのイベントに参加して、部隊の実状を学んでいきたい。中でも体験搭乗が楽しみです。」とそれぞれ抱負を語ってくれた。



委嘱状伝達式



本部長との懇談